

トルコ 高地のリンゴは熱波から守られた

FreshPlaza 2023年9月22日

トルコの熱波は一部のリンゴ産地でかなりの問題を引き起こしたが、トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ (Demir Fresh Fruits) 社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、同社の果樹園は標高が高いため、多くの問題を免れたとして次のように述べた。「トルコ産リンゴの今シーズンの生育期間はかなり順調であったものの、気候変動により最適とは言えず、いくつかの課題をもたらしたが、対処できないものではなかった。弊社の果樹園は主に標高が高い地域にあるので、最近の高温の影響をそれほど受けていない。しかし、ご想像のとおり、トルコの一部の地域はそのような幸運に恵まれていなかった。特にウスパルタ県ではいくつかの大きな問題がある。したがって、品質に妥協できないバイヤーは、この地域で栽培されたリンゴを避けた方がよいだろう」と語った。(以下「」は同氏の発言)

ギリシャとポーランドの生産量は昨年よりかなり少ないが、ケリム氏はヨーロッパ市場への供給に大きくシフトすることはないだろうと考えている。「ヨーロッパ大陸では供給上の問題が見られるが、トルコ産のリンゴはヨーロッパではそれほど人気がない。したがって、トルコ産がヨーロッパの品不足を埋めることができるとは考えにくく、そのため、ヨーロッパ市場は弊社の第1のターゲットではない。とはいえ、今年もヨーロッパでチャンスを得られる可能性は間違いなくあるだろう。」

インドでもまた、国内の供給量の減少が予想されるため、ケリム氏はこれまでで最高の季節になる可能性があると考えている。「今年のインドのリンゴの生産量がかなり少ないという事実は、トルコ産が品不足を埋める大きなチャンスをもたらす。トルコはインドで1番のリンゴの輸入先になっていると自信を持って言える。弊社の「DeBa」ブランドは、変わらぬ品質の高さで大きな需要がある。リンゴの価格はブランドによって異なる。品質の良さを示す優良ブランドを持っているなら、市場で強い需要があるだろう。ヨーロッパとインドの両方で生産量が少なくなっているため、価格は確かに昨年より少し高くなると予想している。」同氏は、「これらすべてが組み合わせると、トルコのリンゴにとってこれまでで最高の年になる可能性がある」と結論付けている。

執筆者: ニック・ピーターズ

ベトナム 果実・野菜の輸出額が史上最高

Retail News Asia 2023年9月22日

ベトナム果実野菜協会 (Vinafruit) は税関データを引用し、今年の第1～第3四半期の果実と野菜の輸出額は推定41億米ドルで、2022年の通年よりも24%多いと発表した。同協会は、ドリアン、バナナ、ドラゴンフルーツが増加の主要品目であり、輸出額10億ドルの大台に乗ったドリアンがリードしていると説明する。

中国は突出して最大の輸入国であり、今年の最初の8か月でベトナムから23億ドル相当の果実と野菜を輸入した。これは前年比134%の増加であり、総輸出額の64%を占めている。これに次ぐ3大輸入国は、米国(1億6,800万ドル、同期間に6%減)、韓国(1億4,800万ドル、18%増)、日本(1億2,300万ドル、6%増)である。

ドリアンの輸出は今年20倍に増加した。タイやフィリピンの品種とは異なり、ベトナムのドリアンはいわゆるオフシーズンでも収穫することができ、その結果、高い輸出価格を獲得できる。

中国はまた、ベトナムからバナナとジャックフルーツを高い価格で輸入しており、公式の割り当てを通じて生鮮ココナッツを輸入することを検討している。

米国は最近、ベトナムからの殻付きココナッツの輸入を許可した。

農業農村開発省によると、ベトナムはより多くの品目をより多くの市場へ輸出することを計画している。それは、米国、オーストラリア向けのパッションフルーツ、日本、韓国、オーストラリア、インド向けのグレープフルーツ、インド向けのドリアン、中国向けの柑橘類、ココナッツ、ドリアン等である。